

# 教取闘争の新人の提起

## 意識性

### ① 教取解体 (サークル解体) と新直学会解体

サークル解体 資本主義がそのブルジョア的支配を労働力の商品化と生産過程の労働力に基づいている事から、現在の公教育はその価値基準を資本の論理以外において展開し得ない。それ故に公教育の「中立」などは全く幻想なのである。従って現在の公教育は労働力の生産課程とイデオロギー注入装置としてある。人間能力の物象化、という一面的な外化の下での「主体性」が、ブルジョアジーの言う主体性であり、これは擬似主体性として倒したもものとしてある。この擬似主体性であるところの、「主体性」の下に現在のサークルの存在基盤がある。この事柄を捉えるなら、現在までのサークル運動は、「研究」の名の下に、擬似主体性の「主体性」としての転倒を増大させていたものでしなない事は明らかであろう。サークルが階級社会的矛盾の一形態であるという事は、その矛盾の止揚は、サークル運動の自己を存立せしめる世界への闘いしなない。

### 新直学会解体

○ 双分白紙撤回 → 理事会、評議会解体 → 新直学会解体へと進化 (深化)

○ 自己のメディアへの関係性の向背。

○ 自己の階級基盤の確定。

○ メディアの捉え方、その視角。

○ 諸現象の抽象、提示 筆叢を所与、(読者を抽象的何として捉える)

○ 諸現象の本質的な矛盾などにあるもの、その内容を展開し、諸者の矛盾を外化。

○ 指ド — 被指ド の関係の把握、その対象化。

指ドは被指ドの矛盾を外化、発展し展開しななければ、指ドそのものの内容が限定され、指ドは常態的な、命令的なものとしてしな、存在する事が出来ななる。

○ 運動形態の新たな潮流の包摂形態。

拡大メディア共闘の運動の具体性

不可視の読者の提示

➤ 教取闘争